

## ◆計画地の形状を一部変更しました

横浜市の将来を見据えた長期的な視点に立った斎場整備を進めるため、次の理由から、「隣接する貨物線の跡地」を斎場整備に活用するとともに、隣接する貨物線の跡地と斎場用地の間にある「私有地」を土地等価交換により取得しました。（下の「変更前」と「変更後」の写真をご参照ください。）

### (1) 斎場利用者の安全性・利便性の向上を図ります。

変更前は、斎場へのアクセスルートは一方向のみ（青色矢印）でしたが、変更後は、二方向（青色矢印）を設けることができます。

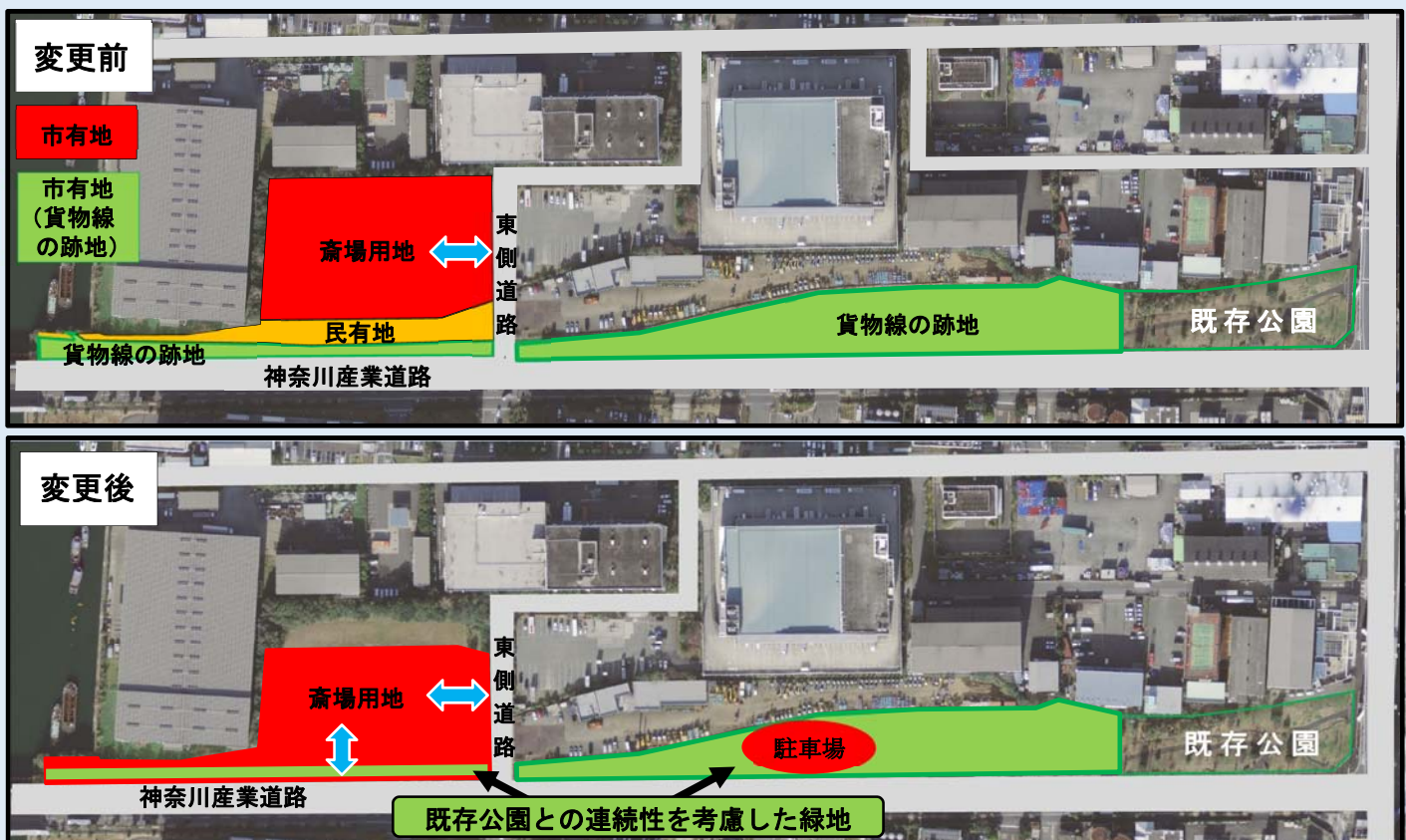
これにより、斎場利用車両の分散化を図ることで、東側道路を通行する大型車両との交錯が減り、より一層、安全性が向上するとともに、斎場利用者の利便性も向上します。

### (2) 周辺交通への影響軽減を図ります。

斎場用地内の駐車場は、十分な台数を確保しますが、大規模な葬儀が行われ、万一、会葬者による駐車待ちや路上駐車が発生すると、周辺交通へ大きな影響を与える恐れがあります。

そこで、貨物線の跡地を活用し、斎場利用者の駐車場を設けることで、周辺交通に与える影響を軽減します。

なお、駐車場以外の部分については、斎場と一体的となる緑地として、既存公園との連続性を考慮した整備を行います。



※斎場は、左側の赤色部分の「斎場用地」に令和5～7年度に建設します。

## ◆今後のスケジュール（予定）

令和2年度

基本設計  
地質調査  
火葬炉仕様検討 等

令和3～4年度

基本設計、実施設計  
都市計画手続き  
土木工事 等

令和5～7年度

建築工事  
火葬炉設備工事 等

令和7年度

供用開始

## ◆整備の基本的な考え方について

斎場の設計は、次の5つを基本的な考え方として進めていきます。

### (1) 機能的な施設計画

斎場を利用する全ての方が、安全かつ円滑に利用することができ、斎場全体の動線の効率化を考慮した施設計画とします。

### (2) 厳粛性・静寂性の確保

火葬炉前の空間を一つ一つ独立させる等、故人との最後のお別れの場として厳粛かつ静かな空間とします。

### (3) 環境への配慮

計画地周辺の土地利用計画を踏まえた緑化や、再生可能エネルギーの利用等による環境負荷低減を図ります。

### (4) 災害対策

計画地は、1.0m以上2.0m未満の津波浸水が想定されているため、津波発生時には、斎場利用者のほか計画地周辺の方々も利用できる一時的な津波避難施設とします。また、災害時も火葬機能を維持できるよう、火葬炉、受変電設備、非常用発電設備等については、想定される浸水深以上である建物の2階以上に設置する等の措置を講じます。

### (5) 維持・管理への配慮

火葬炉をはじめとする設備機器のメンテナンスや更新に際し、施設の稼働を止めることなく対応できるよう、各設備計画や管理動線に配慮します。

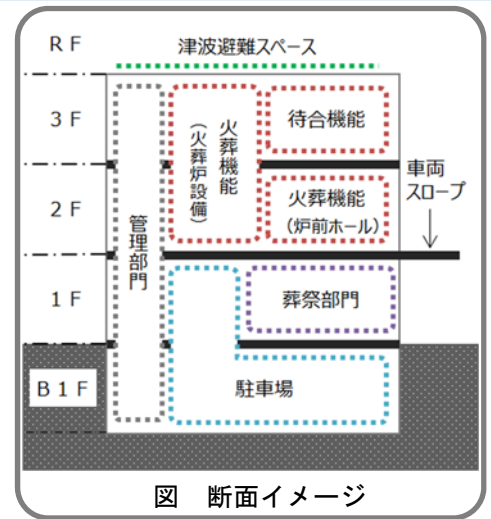


図 断面イメージ

## ◆整備概要

所 在	鶴見区大黒町18-18ほか	面 積	約 11,000㎡
用 途 地 域	工業専用地域	建 蔽 率	60% (緩和適用により70%)
		容 積 率	200%
臨 港 地 区	横浜港臨港地区	現 況	鶴見区スポーツ広場 (暫定利用中) ほか
規模 (想定)	延床面積 約20,000㎡、地上3階地下1階		
火 葬 炉 設 備	16炉 (うち予備1炉)	1 炉 対 し 1 排 気 系 統	
炉 前 ホール	16室 (告別、収骨室兼ねる)	霊 安 室	ご遺体を約10体お預かりし、面会所も整備
待 合 機 能	待合室16室 (40人用)、待合ロビー、売店・喫茶、キッズスペース		
葬 儀 式 場	2~3室 (約50席)	駐 車 場	150台以上

## ◆説明会のご報告

令和2年1月31日 (金) 及び2月1日 (土) に、生麦地区センター (鶴見区) において、説明会を開催しました。

### <主な質疑内容>

#### ○ 「計画地の一部形状変更」により、斎場へのアクセスでは東側道路を使わなくなるのか。

→ 現在、神奈川産業道路と東側道路が交わるT字交差点には中央分離帯があり、鶴見区方面からは右折ができません。そのため、鶴見区方面からは、東側道路を通行することになります。この道路を通らずアクセスできるよう、神奈川産業道路のT字交差点を改良するため、県警と協議を進めていきます。

#### ○ 駐車場は150台以上を確保するとのことだが、最大稼働時に想定している駐車台数は。

##### また、敷地外駐車場の規模はどれくらいか。

→ 予備炉を含む16炉全てを稼働させた場合、同時に駐車する台数は業務車両を含めて105台程度と試算しています。敷地外駐車場は、マイクロバス10台以上を止められる規模にしたいと考えています。

事業の進捗状況は、この「整備通信」や説明会の開催、ホームページなどを通じてお知らせしてまいります。

東部方面斎場

検索